

2022.12.22

DanceBaseYokohama

愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama [DaBYダンスプロジェクト]
 鈴木竜×大巻伸嗣×evala『Rain』、2023年1月13日(金)にチケット発売
 大巻伸嗣による舞台美術を一部公開/音楽家evalaの参加が決定/演出振付は鈴木竜
 ～出演の米沢唯を表紙としたチラシビジュアルを公開～



2023年3月11日(土)・12日(日)に、愛知県芸術劇場小ホールにて、愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama [DaBYダンスプロジェクト] 鈴木竜×大巻伸嗣×evala『Rain』を上演します。

本作では、DaBYアソシエイトコレオグラファーの鈴木竜が演出・振付、現代美術作家の大巻伸嗣が美術を手掛け、創作を開始していましたが、この度、新たに音楽家のevalaの参加が決定しました。evalaは立体音響システムを駆使した独自の“空間的作曲”によって、聴覚体験の新しい可能性をひらく作品を発表し続けています。本作でも、作曲のみならず音響システムを含めた総合的なサウンドディレクションを行います。

また、舞台美術は、“影を物質として捉えること”を試み、空間における影(黒)の質量と空間との関係を可視化させ、観賞者が圧力や重力を体験する作品「Liminal Air - Black Weight」(2012年発表)を原案とした美術に決定し、現在制作中です。

『Rain』のチラシビジュアル表紙には、DaBYレジデンスダンサーらを中心とした若手ダンサーとともに本作に挑む愛知県出身の米沢唯が、舞台美術の一部と撮影に臨んだ写真を使用しています。裏面には、作品の創作過程で描かれた大巻によるドローイングを引用しています。

2021年に初演し、2022年の全国7会場での再演ツアーにて好評を得ている「ダンスの系譜学」と「鈴木竜トリプルビル」に続く本公演は、愛知県芸術劇場とDance Base Yokohamaとの連携プロジェクトの続編です。本作のチケット発売は2023年1月13日(金)です。どうぞご注目ください。

原作:サマセット・モーム『雨』

イギリスの小説家・劇作家サマセット・モーム(William Somerset Maugham/1874-1965)により、1921年に発表された短編小説。感染症により南の島に閉じ込められた医師と宣教師夫妻たちが宿泊先で出会ったのは、品性下劣で信仰心のない一人の女性であった。雨が降りしきる閉鎖空間で過ごすなか、それぞれの人物の価値観の違いから生まれる心情や軋轢、そして予想外の結末が描かれる。

鈴木竜×大巻伸嗣×evala『Rain』

名称：愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama DaBYダンスプロジェクト 鈴木竜×大巻伸嗣×evala『Rain』

日程：2023年3月11日(土)・12日(日) 各日14:00開演 (13:30開場)

会場：愛知県芸術劇場小ホール

詳細：https://dancebase.yokohama/event_post/rain

チケット料金：全席自由(税込)

一般：5,000円 / U25: 3,000円

※U25は公演日に25歳以下対象(要証明書) ※3歳以下入場不可 ※開演後のご入場はお待ちいただく場合がございます。

※車椅子でご来場予定の場合は劇場事務局(TEL052-211-7552/ contact@aaf.or.jp)までご連絡ください。

※やむをえない事情により内容・出演者等が変更になる場合がございます。

チケット発売：2023年1月13日(金)10:00～

【DaBY Peatix】<https://dancebaseyokohama.peatix.com/>

【愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス】<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/>

【愛知芸術文化センタープレイガイド(地下2階)】

TEL 052-972-0430 / 平日 10:00-19:00 土日祝休10:00-18:00(月曜定休/祝休日の場合は翌平日)

※購入方法によりチケット代金のほかに手数料が必要になる場合がございます。

託児：3月12日(日)のみ [有料・要予約]

【対象】満1歳以上の未就学児

【料金】1名につき1,000円(税込)

【申込締切】2023年3月4日(土)

【申込】オフィス・パレット株式会社

TEL：0120-353-528(携帯電話からは052-562-5005) / 受付時間：平日9:00-17:00 土9:00-12:00(日祝休み)

作品クレジット

演出・振付：鈴木竜 (DaBY)

舞台美術：大巻伸嗣

音楽：evala

出演：米沢唯(新国立劇場バレエ団)、吉崎裕哉、

木ノ内乃々、土本花、戸田祈、畠中真濃、牧野李砂、Ikuma Murakami (以上DaBYレジデンスダンサー)

アンダーキャスト：堀川七菜 (DaBYレジデンスダンサー)

スタッフクレジット

プロデューサー：唐津絵理(愛知県芸術劇場/Dance Base Yokohama)

マネージングディレクター：勝見博光(Dance Base Yokohama)

プロダクションマネージャー：世古口善徳(愛知県芸術劇場)

舞台監督：川上大二郎

照明デザイン：高田政義(RYU) / 照明施工・オペレート：上田剛(RYU)

音響：久保二郎(ACOUSTIC FIELD INC.)

舞台協力：(株)ステージワークURAK

リサーチ・構成：丹羽青人(Dance Base Yokohama)

制作：田中希(Dance Base Yokohama)

広報：西原栄

主催・企画・共同製作：愛知県芸術劇場、Dance Base Yokohama

制作：Dance Base Yokohama

フライヤークレジット

デザイン：GOAT 撮影：阿部高之 ドローイング：大巻伸嗣

PROFILE



©TakayukiAbe

【振付】鈴木竜 Ryu Suzuki

Dance Base Yokohamaアソシエイトコレオグラファー。横浜に生まれ、英国ランベール・スクールで学ぶ。これまでにアクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ、フィリップ・デュクフレ、インバル・ピント/アブシャロム・ポラック、エラ・ホチルド、平山素子、近藤良平、小尻健太など国内外の作家による作品に多数出演。振付家としても横浜ダンスコレクション2017コンペティションIで「若手振付家のためのフランス大使館賞」などを史上初のトリプル受賞するなど大きな注目を集めており、作品は国内外で多数上演されている。

DaBYでは、2020年度にはDaBYコレクティブダンスプロジェクトに取り組む。また2021年に『When will we ever learn?』『never thought it would』『Proxy』を創作し、愛知県芸術劇場にて初演、KAAT神奈川芸術劇場にて再演。2022年度には国内外での再演を予定している。

【美術】大巻伸嗣 Shinji Ohmaki



©paulbarbera/wheretheycreate

岐阜県出身。「存在」とは何かをテーマに制作活動を展開する。環境や他者といった外界と、記憶や意識などの内界、その境界である身体の関係性を探り、三者の間で揺れ動く、曖昧で捉えどころのない「存在」に迫るための身体的時空間の創出を試みる。

主な個展に、「存在のざわめき」(関渡美術館/台北, 2020)、「まなざしのゆくえ」(ちひろ美術館, 2018)、「Liminal Air Fluctuation - existence」(Hermèsセーヴル店/パリ, 2015)、「MOMENT AND ETERNITY」(Third Floor - Hermes/シンガポール, 2012)、「存在の証明」(箱根彫刻の森美術館, 2012)、「ECHOES-INFINITY」(資生堂ギャラリー, 2005)。あいちトリエンナーレ(2016)、越後妻有アートトリエンナーレ(2014~)、アジアパシフィックトリエンナーレ(2009)、横浜トリエンナーレ(2008)などの国際展にも多数参加。近年は「freepius×HEBE×Shinji Ohmaki」(興業太古匯/上海, 2019)、横浜ダンスコレクション「Futuristic Space」(横浜赤レンガ倉庫, 2019)、「Louis Vuitton2016 - 17FW PARIS MEN'S COLLECTION」(アンドレシトロエン公園/パリ, 2016)などでも作品を発表する。

【音楽】evala



©SusumuKunisaki

音楽家、サウンドアーティスト。新たな聴覚体験を創出するプロジェクト「See by Your Ears」主宰。立体音響システムを駆使し、独自の“空間的作曲”によって先鋭的な作品を国内外で発表。2020年、完全な暗闇の中で体験する音だけの映画、インビジブル・シネマ『Sea, See, She - まだ見ぬ君へ』を世界初上映し、第24回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞。2021年、空間音響アルバム『聴象発景 in Rittor Base - HPL ver』が国際賞プリ・アルスエレクトロニカ栄誉賞受賞。

近作に、世界遺産・薬師寺を舞台にした『Alaya Crossing』(2022年)、『Inter-Scape 22』(東京都庭園美術館, 2022年)、『Haze』(十和田市現代美術館, 2020年)、SONY Sonic Surf VRを用いた576ch音響インスタレーション『Acoustic Vessel Odyssey』(SXSW, Austin 2018年)、『Our Muse』(ACC, Gwangju Korea, 2018年)、『大きな耳を持ったキツネ』(Sonar+D, Barcelona 2017年)など。

<https://evala.jp> <https://seebyyourears.jp>

PROFILE（出演者）



©KenjiAzumi

米沢唯 Yui Yonezawa

愛知県出身。2010年にソリストとして新国立劇場バレエ団に入団。2011年ビントレー『パゴダの王子』で主演デビュー。2013年プリンシパルに昇格。2004年ヴァルナ国際バレエコンクールジュニア部門金賞、2006年ジャクソン国際バレエコンクールシニア部門銅賞など。2014年中川鋭之助賞、2017年芸術選奨文部科学大臣新人賞、2018年舞踊批評家協会新人賞、2019年愛知県芸術文化選奨文化賞、2020年芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子賞優秀賞受賞。

愛知県芸術劇場の自主事業にも多数参加している。うち、劇場プロデュース作品としては、2004年ダンスオペラ2『青ひげ公の城』、『戸外にて』（振付：アレッシオ・シルヴェストリン）、2005年ダンスオペラ3『UZME』（振付：笠井勲）、2005年「あいちダンスフェスティバル」にて大島早紀子作品『ユークロニア』にクリエイションから参加して、初演に出演している。

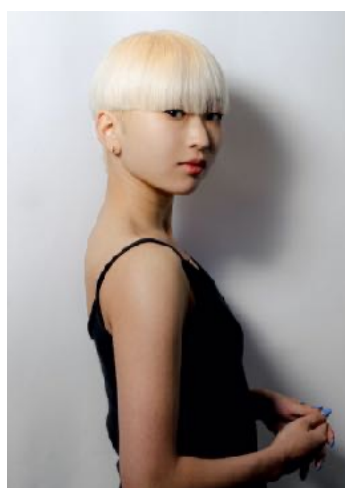
**吉崎裕哉 Yuya Yoshizaki**

2012年から2018年までの6年間、金森稜率いるNoismに所属。

現在はCo.山田うんに所属しながら白井晃、G2、加賀谷香、熊林弘高、田尾下哲、夏木マリ、小尻健太、Fabien Prioville、柳本雅寛等の作品に出演。

また東京パラリンピック2020開会式、MLB開幕戦、東京ディズニーランドカウントダウンパレード、NHKバレエの饗宴など、これまでに国内外40都市以上の作品に主要キャストとして出演。

振付家として新国立劇場主催「舞姫と牧神たちの午後2021」にて『極地の空』を加賀谷香と共同振付。

**木ノ内乃々 Nono Kinouchi**

Dance Base Yokohamaレジデンスダンサー。3歳よりマユミキノウチバレエスタジオでクラシックバレエを学ぶ。国内のバレエコンクールにて第一位を多数受賞。2015年よりワシントンバレエスクール、ベルリン国立バレエスクールに留学。帰国後日本に拠点を移し、2019年以降、安藤洋子、遠藤康行、白井晃、中村しんじ等の作品他、ソロでPOLA Apexブランドムービーに出演。近年は、ソロ作品『from before』（2021）、『sarabande』（2022）を発表する等、振付にも意欲的に取り組んでいる。

Dance Base Yokohamaでは、安藤洋子演出・振付『MOVING SHADOW』に出演。



土本花 Hana Tsuchimoto

Dance Base Yokohamaレジデンスダンサー。岐阜県出身。

4歳からクラシックバレエを始め、その後コンテンポラリーダンスと出会う。現在、月面着陸メンバーとして活動。ありのままのからだ、新たなからだとの出会いを求めて踊っている



戸田祈 Inoru Toda

Dance Base Yokohamaレジデンスダンサー。

1993年生まれ。大阪府出身。

2020-2021 池上直子率いるプロジェクト カンパニーにて活動。

2021年よりPaul Julius率いるJapan Contemporary Dance Companyに参加。

また、Giulio Ciabatti、三崎彩、宮本亜門、Jiri Pokorny、高原伸子、各氏の作品、クリエイションに参加。



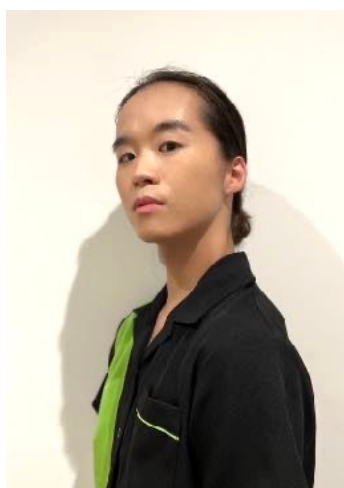
畠中真濃 Mano Hatanaka

Dance Base Yokohamaレジデンスダンサー。東京都出身。幼少期よりクラシックバレエを学ぶ。お茶の水女子大学舞踊教育学コース卒業。小夙健太や鈴木竜の作品に出演するほか、蔡博丞(Benson Tsai)や女屋理音の作品にも出演している。自身の振付作品で第2回ワールドダンスコンペティション in Niigata第2位、新潟市長賞を受賞する、堀内恵企画展示『ダンスを生活空間に接続する11人の試み -いかにしてパフォーマンスは展示可能か?-』やCore Collectiveに参加するなど、幅広く活動している。



牧野李砂 Risa Makino

Dance Base Yokohamaレジデンスダンサー。三重県出身。
ジャンルに囚われないオールラウンドプレイヤー
細くつった目に、太くて長い首、猿腕
特徴的である身体を生かす踊りが持ち味である。
様々なアーティストのバックダンサー、ダンス公演等で活動している。



Ikuma Murakami

Dance Base Yokohamaレジデンスダンサー。
1997年生まれ、兵庫県出身。
アジア最大級のストリートダンスコンテストの日本代表を務める他、多数
入賞。日本発世界初のプロダンスリーグ第一生命D.LEAGUE21-22
SEASONに「LIFULL ALT-RHYTHM」として参戦。



【アンダーキャスト】堀川 七菜 Nana Horikawa

Dance Base Yokohamaレジデンスダンサー。
5歳よりクラシックバレエを始める。12歳よりシンフォニーバレエスタジオにてクラシックバレエ、コンテンポラリーを学ぶ。国内外のコンクールにて上位入賞多数。Brilliant Stars Ballet Competitionにてコンテンポラリー部門課題動画のデモンストレーションを務める。シンフォニーバレエスタジオにて講師を務める。
クラシックバレエとコンテンポラリーダンスの両立を目指す。



©TakayukiAbe

【プロデューサー】

唐津絵理(愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー/DaBYアーティストティックディレクター)

お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業、同大学院人文科学研究科修了。舞台活動を経て、1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。2000年に所属の愛知県文化情報センターで第1回アサヒ芸術賞受賞。2014年より現職。2010年～2016年あいちトリエンナーレのキュレーター(パフォーミング・アーツ)。大規模な国際共同製作から実験的パフォーマンスまでプロデュース、招聘した作品やプロジェクトは200を超える。

文化庁文化審議会文化政策部会委員、全国公立文化施設協会コーディネーター、企業の芸術文化財団審査委員、理事等の各種委員、ダンスコンクールの審査員、第65回舞踊学会大会実行委員長、大学非常勤講師等を歴任。講演会、執筆、アドバイザー等、日本の舞台芸術や劇場の環境整備のための様々な活動を行っている。

著書に『身体の知性』等。

愛知県芸術劇場

名古屋市内の栄地区に位置する芸術文化の複合施設「愛知芸術文化センター」内に3つのホールを有する県下最大級の劇場。本格的なオペラやバレエが上演可能で、ヨーロッパの劇場を連想させる大ホール(2,480席)、クラシック音楽に最適な響きを持ち、パイプオルガンを備えたコンサートホール(1,800席)、自由なスタイルで創造的な表現の場として活用いただけるブラックボックス型の小ホール(最大330席)と、それぞれのホールが特徴を持つ。

DanceBaseYokohama

ダンスを中心とするパフォーミングアーツ作品の創作を目的に、地域や文化芸術を愛する方のために開かれたダンスハウスとして2020年6月横浜を拠点に設立された。ワークショップや実験的なトライアウト公演の企画・運営、海外アーティストやカンパニー招聘、ダンスアーカイブ事業などを行い、振付家やダンサーのみならず、さまざまな分野のクリエイター、批評家、研究者、プロダクションスタッフ、そして観客の交流拠点をめざしている。

アーティストティックディレクターを唐津絵理(愛知県芸術劇場エグゼクティブプロデューサー)が務め、ダンス、パフォーミングアーツ領域全体の活動環境の整備、アーティスト・ダンサー・スタッフの権利擁護、観客・市場拡大施策等を展開する。

2020年「ダンスを社会にひらく」コンセプトが評価され、グッドデザイン賞受賞。2021年ロゴマークが東京TDC賞2021に入選。